WASON
HQ
1104
J74+

July 21
1888
No. 119

廿一年七月(版權所有)廿一日發兌

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

東京女學雜誌社

一冊五錢
府內無稅 郵稅一錢
每土曜出版

第百九拾號

社説
男女交際の危險

論説
社交上に於ける婦人の勢力(德富猪一郎)○某女學校の卒業式(自然道士)

批評
今世ひめ鑑○鳩山博士の御婦人方心得○植村正久君の婦人議員論○西村貞君女子教育の精神○盲目使者(美妙齋主人)

叢話
ゆめものかたり(なを子)○土耳古の婦人(みどり)○演藝矯風會に望むこと(美妙齋)○百人一首一口話

小説
さすがに雙紙○小説神髄

佳傳
光格天皇御生母○基久之女艶色

寄書

小供談

新報

評和堂中川昇刻　專賣二〇三一一一五

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 119. July 21st, 1888.

EDITORIAL:— On Social Intercourse: No. VII., The Dangers of Social Intercourse (II).
LEADING ARTICLES:— Influence of Women in Society (Concluded), by Mr. I. Tokutomi; Japanese Literature in Girls School, by K. S. M.
CRITICAL NOTES:— " Konsei Hime Kagami " (The Ladie's Book); Dr. Hatoyama & " A Word to Ladies"; Mr. T. Nishimura & " Spirit of Woman's Education"; Report from Mr. M. Uyemura in America ; " Mekura Shisha" (A French Novel).
MISCELLANIES:— Turkish Woman; A Night Dream, by Miss N. I. ; The Reform Society of the Artists (II).;
NOVELS:— " Sasugani " (IV).; Bouquet of Novels.
BIOGRAPHIES:— Lady Iwashiro; Miss Motohisa.
CHILDREN'S COLUMN.
CORRESPONDENCES.
GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

一册枚數七十葉定價二十錢全國無郵稅

去十三日出版せり

通信女學第十一巻發兌

蓋し最良の敎科書

婦人會員の會讀及戸内の獨學に宜ろし

女學雜誌社

●珊瑚の珠　（七十三回）

○全助母を諫めて曰く極樂淨土は住よくとも見て來たるものあければ急ぎて赴むく旅ならず。（占夢南柯後記）

○女軍爲朝を襲う時櫻の枝をおもみ打んとすれば糸遊の糸よもつるゝ如くにて搔くゝり押しへだて或は搔遣りうけとむる肩に風のあればにや花霏々として散亂し胡蝶に似たる釵兒の閃めくも又た風情あり是は孫子が女兵を操つり彼は太眞が花の軍さに留奇南の薫と花の香とこきまぜて拔き又なびくいづれ花ともわきがたき。（椿說弓張月）

○ムーデー曰く細事を好まざるものは神の命を聽くと能はず彼の大事を爲さんと欲して常に其機を待つものゝ如きは決して何事をも爲すと能はず。

○ガーフヒールド曰く世界の歷史は神の詩なり國民の歷史は詩の一律あり人々の傳紀は一律の語なり此詩の唱音は世紀數多を經て靜かに聽こゆ其間だに戰爭の砲響死人の苦吟なきに非ずと雖ども基督敎を信ずる所ろの哲學者及び歷史家並に謙遜なる聽手は此の唱音よく調のひて未來の望と成るべき調和の時あるとを告ぐるを聞べくし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百拾九號　明治二十一年七月廿一日發兌

社説

○男女交際論（第七）

其危險（下）。

吾人は、飽までも男女交際の効益を信ずるが故に、今の日本社會を見渡して轉た慷歎に堪へざるものあり、蓋し男女交際をして斯る社會内に自由に行はれしめんとするは、恰かも千金の愛子を驅つて、之を遊廓に投ずるが如し、其の過ちあらんと指を屈して待つべき也。男女交際は、素と腐敗に陥いり易すきの傾向を有す、但夫れ西洋文明國に於ては幸わひに數個の防腐劑あり、以て能く之れが腐敗に落つるを制止すとは申せ、顧みて我國去往現今の實情を觀ずれば、啻に此の妙効ある防腐劑の存せざるのみにあらず、實に此の花の如き愛子を驅て、之を不善墮落の界内に陷入るゝものゝ、尤とも多きを見る也。

一。宗教の可否は暫らく論ぜず、但だ之を男女交際の上よりして觀察するに、其の有益なる勢力の莫大なるは實に爭ふ可らざるもの也。抑も人の見る所ろ、聞く所ろに於ては、道德及び習慣の勢力隨分に尠しとなさずと雖ども、一旦四面沈々夜深うして人目人聲なく、吾と君と壁と空氣の外か他に之を見聞するものなきに際しては、何人と雖ども惡魔の誘惑を退くるの頗ぶる難きを覺え、遂に道念眼を閉ぢ、躊躇隱微として共に罪を侵すに至るの情あり、而して彼の公然たる男女交際は、近密なる交際を齎らし來り、近密なる男女交際は、兩人餘念なく自由安穩に打語らはんことを促がし來るが故に、此に至て彼等が心裡を支配し得べきものは、既でに道德及び習慣の力量にあらず、必らずや、見ざる所ろなく、聞かざる所なく、在まさゞる所ろなく、知らざる所ろなき上帝の觀臨ましますことを信じ、密室内に悚然として寅れ、深夜暗黒の裏に肅然として愼しむの念なきにあらずんば、男女交際は其自由なる程に亦た其の害毒を恣まゝにし、天下の男女慣れむべくも皆な罪惡の奴隸と爲るの不幸あらん。ジヨンロルドは歴史に明らかなるもの也、嘗て云く、眞正の社交勃興し、男女交も純潔に交際するに至りたるは、基督教行れて、偶像教の衰へたる當時に始まると、蓋し然らん。吾人は今ま基督教の害惡を言はず、然れども頭を叩くに頑として答へず、宮に詣で鈴を鳴らさずんば敢て聞かずと定まつたる偶像は、實に能く吾々

の隱微を見拔きて、密かなる罪惡を制止するの勢力あるものにあらずと云ひ、而して、彼の天地に圓滿せる、全智全能、公義至正なる上帝を信ずるに至つて、初めて能く人間心裡の隱密を支配するの勢力あらんとのみ云ふべし。悲しひ哉日本未だ斯の如き宗教なし、之れ有るも其の行はるゝ尚甚だ淺し、此時に當つて若し自由なる男女交際行はるゝならば、其の害毒の生ずる所ろ果して何如ん。

○二日本國、假令ひ未だ斯の如き宗教あらずと雖ども、若し其の道德にして固く、其の習慣にして謹嚴ならば、尙以て或る限りに至る迄、男女交際の危險を制止するの功あらんとす、而して此等だも倘ほ今まは存せずと知らる、悲しひ哉。見よ、日本の輿論は何如ほど迄に姦淫を惡む乎、然り姦淫を侵したるの女子に對しては、世人隨分に爪彈きして之を退ぞく、然れども男子が之れを侵すに至つては、世人恬として之れを搆はず、甚はだしきは、之を詩に吟じて風流と爲し、新聞紙に書立て豪遊と爲し、働らきものと賞し、才子とし羨やむ、故に郎が一夜の愛顧に百年の身を誤まるの佳人多く、之を愛顧し墮落せしめたるが故にいよ〳〵高名なるの才子多し。都城の人よ、吾人は日本上流の社會に於て姦淫の空氣既でに澄みたりとは云はず、然れども先づ步を轉じ、都外の各地方に至つて之を見よ、如何に男女の間柄の杜鹵なる、如何に淸純の氣の欠乏したる、吾人は之を見聞する每に未だ嘗て泣かざるとあらず、而して此の如き社會をして、一轉今より自由なる男女交際の地に入らしめんとするは、國家を混亂する蓋し之れより甚しき者はあらじ。道念高潔、道を履む謹嚴、凡そ人間として尤も立派なる君子英雄にてあり、而も倘ほ一旦立入るまじきの境界に立入てよりは、最早や其の脫發したる彈機を止むるに由なく、遂に惚然として罪を侵すに至りたる、西洋日本の歷史に於て多く其人あるを見る、非常の君子英雄にして倘且つ然り、况んや無腸輕薄の豆腐男子にして、優柔卑屈の女子に交際し、而して其交際の腐敗を制止すべき勢力の存せざるに於てをや、誰れか之を危險あらずと云ふ。吾人は決して西洋文明國に姦淫あらじと云はず、其の之れあるや或ひは日本國に劣らざるともやあらん、然れども彼處に於ては、社會の道德確立して能く姦淫を惡むとを知り、輿論の勢力强大にして能く姦淫を退くるを爲す、未だ嘗て公然に姦淫を行ひ、公然に姦淫を談じ、公然に姦淫を書立つるものはあらず、之れ實に我國に優る一等の高かきある所以ありと知らる」。悲

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

しひ哉、日本社會の道德甚だ弱く、輿論の勢力甚だ微なり、此時に當つて若し自由なる男女交際行はるゝあらば、其害毒の生ずる所ろ果して何如ん。

○三　蓋し日本の男子は、孃が百年の身を誤まるを憂ひず、孃は一夕の愛に終身を害せらるゝを防ぐ能はず、一は不信切にして、一は甚だ弱はし。男子もし往昔に於ける勳爵士の氣象を些細にても受けなば、眞正に佳人を愛するは佳人を敬するに在るを知らん。正行は辨の內侍を愛するもの也、故に歌つて「迚も世にながらふべくもあらぬ身の假りの契を何如で結ばん」と辭す。日本男子もし少なくとも紳士たるを得ば、彼等必らずや、神聖なる女性の貞節を破らんとはせじ、自己は洒々落々として不取締なる勝手の社會に横行し、可憐の淑女を傷つけて恬として愧ぢず、抑も大丈夫の爲すべき事ならんや。「希くは諸君大丈夫と爲れ、希くは紳士と爲れ、希くは明治の勳爵士と爲れ、而して女性の貞節を尊重するに至つて、初めて諸君に自由なる交際を托することを得べし、諸君苟くも今の如くに失敬殘酷ならん限り、日本の男子に對しては吾人は遺憾にも此の淑女を八重垣の內に圍み、敢て其の自由に逍遙するを禁止せざる可らず。」亦顧みて、今の日本の女子を見るに、他年の習慣に養はれて、委賴心甚だ多く、敢て獨立、節を守るの氣象に乏し。若し無遠慮に其實際を形容せば、恰かも是れ、蔓草其の蔓を伸して左右前后風のまに〳〵浮動漂回し、一と度び倚るべきものありと瞥見せば、未だ其の竹たり木たるを辨ずるに遑まあらず、卒然として之に卷付き、只だ其の振りほどかれんことを心配するが如し。故に今の女性が男子を賞するの資格、第一に信切、第二に深沈着實とあり、共に是れ尤も其身を依賴するに足るの性質なるが故也。之を以て、輕薄の男子特更に信切の面を冠ぶり、巧みに女性を迷はして其歡心を買はんとすれば、女性の欺かれ易きは男子よりも甚だし、乍ち之に信じて百年の苦樂を任ぜんと欲す。此に至ては、道德も貞節も、郎に隨つて初めて成就すべしとれ感ず、則ち姦淫の宜しからざるを知らざるに非ずと雖ども、既に一身を郎に托す、郎の爲す所ろ豈に妾に不利ならんやと信ずるが故に、此に至て其の貞を破り道を外づるゝの眞とに不善なるに氣付かず、浮々としタヨ〳〵として遂に彼の失敬不信切なる男子の罪惡に伴なう、歎ずべき哉。」故に今の日本男子にして更らに信切と爲り、今の日本女子にして更らに確固と爲り、男女相敬するの風を生じて、共に其德を侵

すなきに至り、初めて自由ある男女交際を許すを得べし」。悲しひ哉、今の日本の男女敢て斯の如くあらず、男はアポルヨンにして、女は尚ほ可憐無心の小女たり、此時に當つて若し自由なる男女交際行はるゝあらば、其害毒の生ずる所ろ果して如何ん。

○四　且つや、未だ嘗て交際に慣れざるの男女をして、初めて相ひ接近せしむるの日は、玆に尤も細かなる用心を要す。喩へば、電氣の陰陽畫然として左右に分れ、左右に集結して團々たる二箇の巨大なる躰面に片寄るありとせば、初めて此の二ッを接近するに當ては深く用心せざる可らず、先づ彼此に一線を通架するは好し、之が爲に粲然たる電氣燈狀の光彩を發し、美觀人目を眩する喜ばしきの結果あらん、然るを若し、初めより粗暴無頓着に、兩躰面を接近せしめば、其の接近して先づ相望み見るや、轟然として鳴り、暴烈に抱合し、急速にして所云る陰陽混合の跡を生ずるに至る、而して、電氣の陰陽混合するは固より可也、人性に於て其混合の亂暴ならんは、即ち罪惡不埒の至極なるに均しきものと覺悟せざる可らず。故に今の日本男女をして、今日の初めより自由に交際せしめんとするは、即ち此の不埒罪惡の決果を豫知するの前見なきものと云はざる可らず。蓋し、交際に慣れざるの男女は、相迷ふとの、尤も甚だしきもの也、藪睨を以て秋波と誤まり、信切を以て愛情と誤まり、交際上の愉快を以て伉儷たるに適するの合性と誤まり、談后忘る能はざるの味を以て戀々相思の情なりと誤まり、則ち卒然として決し、卒然として約するの大早計尤も多し、而して此の大早計の啻に早計を以て終らざるを知らば、此の如き大早計を起さするの男女交際は、先づ尤も用心して之を取締らざる可らざるを知る也。悲しひ哉、今の男女は交際の生娘なり、世間見ず也、然るに乍まちにして之を驅つて自由なる交際社會に追遣るあらば、其害毒の生ずる所ろ果して如何ん。

（四）

○五　殊に尤も心配す可者は、今の日本社會に、男女交際に關する一定ある禮式の皆無なるとあり、七才別席の禮式既に今日に行はる可らず、歐米文明國の禮式は未だ今日に知れず、恰かも月沒して、日未だ登らず、百鬼夜行して勝手氣儘に亂暴浪藉するが如し。吾人は西洋に於て、若き無關係の男女二人が自由に外出し遊び歩りくを聞ず。又、年頃の女子が、一人にて集會場に出席するを聞ず。又、左樣亂暴に握手するを聞ず、之にさまざまの禮あるを聞り。又、接吻の甚だ好ましき風たるを聞

かず、既でに米國に於てだも之を公けにするを不可とするを聞けり。又たカートシップ、エンゲージメント（婚縁の契約及び其契約前后の交際）に種々の心得禮式あるを聞けり、未だ左樣に勝手我儘に男女二人の間だにのみ行はるゝものとは聞かず。固より之れあらん、然れども是れ何れも良家に行はるゝ良風俗にあらざるを知る也。而して今の都城の年少男女は、二人同伴して外出消遥するを西洋風なりと思へり。年頃の女子一人にて集會に出で、年頃ろの未婚男子之を接待して、之れを西洋風なりと思へり。無暗に握手し、無暗に接吻し、娘女一人にて下宿し、少年一人にて此處に來訪し、勝手に相約し、父母に相談せず、既に契約して亦之を破り、破つて后ち再び相約するの類、悉く之を西洋風に合せりと思へり。豈尤も驚くべきにあらずや」。吾人は今の日本男女交際をして、一躍して西洋風の男女交際たらしむるの危險なるを信ず、然れども之を直ちに西洋風の男女交際たらしめて、而して尚ほ西洋風の禮式を以て之を制限するなきに至ては、其大危險は抑も幾干ぞや。聞ならく、近來府下男學校の生徒等にして、種々の男女交際會樣の集會を發起し、自分等周旋方と成り、玆に年少の女生を會して、自由に談話し演述し奏樂し遊び廻り、而うして文明の神髓を得たりと心得るものありと、嗚呼未婚の少年にして男女交際會の幹事と爲り、未婚の年少女子にして一人之に臨み、斯て和樂して以て文明なりと云ふもの、天下何の文明國にか之れあらん、吾人は只だ其の日本國の現今に行はれつゝあらんとするを聞くのみ。斷言す、吾人は道の爲めに此等の會合の不都合を鳴らし、其の弊害を暴露し、其改良を希望するに於て、毫末も遠慮する所ろなからんを期す。然れども、要するに是れ、日本に尚ほ男女交際の禮式定まらざるの不幸に因て來る、悲しひ哉、而して斯る日本社會に於て、今より直ちに、自由なる、否な寧ろ我儘なる、男女交際を行ふあらんとす、其害毒の生ずる所ろ果して何如ん」。吾人此等五箇の害毒を想像して前途を望見すれば、今の男女交際には實に危險の尤も莫大なるものあるを知る也。

"From Provence Chiefly Spread to Italy and to the north of France, and Normandy became pre-eminently a Country of Noble deeds." John Lord.

論說

○社交上に於ける婦人の勢力（廿四）

德富猪一郎　演說　佃與二郎　筆記

此分で置きましても、成程婦人は社會の飾りにはなりません、然しながら是れが決して社會の勢力とはならない。固より社會に於てイ、物だと思ふとは出きません、然しながら是れが決して社會に必要のものと云ふとハ出きますまい、ト思ひます。此分で社會の上に御婦人方の勢力は、段々殖へて行くと云ふとハ先づ六ヶ敷いと思ひます。ソレなれば何うするか、一躰私の考へに於きましてハ、此世界、此の世界を一ッに寄せて考て見れば、何んなものかと云ふよ、是れは全く貿易場である、總て貿易する所のものである。何んの貿易かと云へば、相互の樂み、相互の利益と云ふ樣なものを、互に賣買するのである、賣買と云ふ言葉が下卑なれば、互に交換するのです。一方から與へるものがあるに於てハ、必らず他の一方から酬ゆるものが無ければならない。然るに若し一方からのみで、一方から應ずるものが無いなれば、社會の社交と云ふものは止んで仕舞う、私決して世の中は利ばかりの世界とハ申しません、又慾得ばかりの世の中とハ申しません、然しながら交易の世の中に於て、愛を以てすれば愛を交易し、樂みなれば樂みを以て交易するの世界である。然るに一方から與へるものがあつて、一方から與へないと云ふとになれば、到底續く譯には往かない、ソレが續かない日に於ては、交際の出きるものでハない。ソレで思ふたのである。然しながら日本に於て此男子と御婦人との間に、交際が出きないと云ふ譯がある、何處から近く寄せても出きない、互の樂みを交換するとハ出きない、互の利益を交換するとハ出きない、從て又本統の肉躰の外の愛を交換するとは出きない。

ソレで私の考る所よ據れば、若し御婦人方が、社交上に勢力をお張りになる御覺悟であるなれば、社會にお立ち遊ばして男子と共に勢力を交換するの、御覺悟が必要であらうと思ふのです。何うして御覺悟遊ばすかなれば、ソレは決して外でハ無い、兎に角御婦人方が第一に御務め遊ばさなければならぬとハ何んなものか若し之を單簡に淡泊に手短かに申せば何んな所であるかなれバ則ち此話しの種の多くならなければならぬと云ふことです、兎に角御話しの種が多くなければ往けませんと申すことです。近頃日本に於てハ、今申した樣な社會とハ違つて、基蘇教を主としたる色々のとが出きて居る、其外よも種々の事があります。假令ば別に遠い所でハない、東京婦人矯風會と云ふ樣なものも出きます、又は婦人衞生會と云ふ樣なものも出きます、又婦人の手より成立たる所の、

衛生會雜誌矯風會雜誌と云ふものが出きました。此樣なことハ取りも直さず社交上に於ける勢力を、御張りになるの第一着でありまして、既に各々改良が必要であるのだから、職を定めて世の中を静粛するの御覺悟であるから、私等にとつてハ誠に喜ばしく、賛成と申して良か、結構と申してイ、カ、誠に是れより上ハ無いことと思ひますが、併し若し世の中に力をモゥ少し出して、御婦人方の勢力が殖ることを望むのであれば、少し願ひたいと思ふことがある。ソレは何んなことであるかと云へば、衛生が必要と云ふことも大切である、藝娼妓を廢すると云ふことも必要である、酒を飲むなと云ふことも必要に相違なひ、又烟草を吸むなと云ふことも必要に相違ない。併し社會の多くの人が醉狂者でハ無い、是れハ言はずとも分ッて居る、又皆の人が不養生家でも無い、又皆の人が藝娼妓好きでもない、又皆の人の中にハ烟草や酒を飲まない人もある、又た藝娼妓に耽らないものが澤山あらうと思ひます。シテ見ればデス、若し社會に立て御婦人方が、ソレ〳〵の御職分を御盡し遊ばすお考であるなれバ、何時か始終人の顔を見る毎に、酒を飲むな不養生するなと、下手の説敎師の樣に、馬太傳の三章ばかりと云ふ樣に、繰返し〳〵お話したなれバ、婦人方の勢力ハ果たして如何であるか。成る程、酒をやめ烟草を廢めるものはありませう、世の中に烟草屋は減じ酒屋は減ずるでありませう、又卑しき所は減るかも知れない。けれども減ッたとき無くなつた時に、何れ程の効が有るかと云ふに、矢張ソレ丈けのことで、社會の戰場は尚ほ渺々漠々たるもので、何れだけに御婦人の領分がならうかと思ひます。是れよりも尚ほ御婦人の爲さるべきことハある、ソレよりまだ澤山爲して戴かなければならぬと云ふ考があります。

デ、兎角一本槍でハ往かんと思ひます、何處でも彼處でも、加藤清正の樣に然うは往かん、何故なれば、御婦人方の勢力と云ふものは、何の點に向て發達すべきものかと云ふに、社會全躰に向て發達すべき所のものである。私は皆樣に向て、學者になれとハ御勸め申しません、又紫式部とか清少納言とか云ふ樣に、文章家になれとも申しません、又マダム、ステールと云ふ樣に、政治家になれとも言いません。併し若し政治家と御逢になつた時は、隨分其の話しを御呑込みなり、自分の考へも少しは御話しの出きる樣になり、若しくは東京邊りに住はる、紳商などに御逢ひなされても、矢張其御方と御話しが出き、學者に逢ふても同じく御話しが出きる位にお成り

遊ばさなければ、幾ら外形上のヿは進歩しても、社交上のヿは進歩するヿが出きないと思ひます。天氣の挨拶を幾度繰返して言ふても、交際が親密になると云ふヿもない、今日は結搆のお天氣と云ふヿを、幾万邊云ふても、ソレ程婦人の利益は増張するヿもなく、交際の親密にあることも無いと思ひます。

コンナ事を申せば、誠に不調子のヿを言ふと云ふお考への人もありませう、(無いなれば僥倖だが)併し決して調子はづれでは無い、之を調子はづれと思ふお方があれば、則ち其人こそ調子はづれなので、私の考では決してはづれては居らぬ積りです。私の申した事は稍〻明かであるから、是の邊で終るが、婦人の社交上の勢力と云ふものは、恰も蜜蜂の花より花に飛廻ッて、其中からイヽものを擇り、ソシテ立派なる蜜が出きる樣に、所々方々なる社會の間を飛廻ッて、其社會の中より立派なる結晶躰をお作りになるヿを、お勤めなさらなければなるまいと思ひます。ソレに一室に閉籠り、社會の上よ立つとしても、座敷に居らずして成るべく四疊半の隅を好み、何處迄も大陽の光線を避けて、日影臭く幽靈然として居らるゝは、實に此十九世紀に御座る、御婦人方に似合はぬヿと思ひます。私は惟ふに、此矯風會の御方々は、飽まで其目的をお貫きなさるは宜しいが、ソレのみならず是れに加へて、御婦人方が社交上よ於て、勢力を御振ひ遊ばすヿは、一口に言へば、話しの種の多くある樣よおなり遊ばさないと、或は矯風會の目的を貫くヿは出きまいと思ひます。

○某女學校の卒業式に臨みて感あり　自然道士

さきつころ女學雜誌社の勸めよ任せてその寄書家たらんヿを諾ひしかども其後思はずも我執る業務の事の外にいそがはしかりしかば只すまじとのみ心得つゝも未だ一度も其言を踐み行ふの機を得ざりし然るに此程幸に夏の休暇を迎へにければ久しく怠たれる責塞に何がな試に綴りてみばやとやがて書窓に眼を閉て手を拱ぬきサテモ如何なる事をや書ん婦人社會の形勢は近來如何に變りゆきしぞ、婦人會は如何、矯風會は如何、女學校の摸樣は如何、洋服和服の議論は如何、奨勵すべきヿは何事ぞ、注意すべきヿはあからずやなんどゝ彼此思ひ廻らせしほどに遠く霧林を望むるが如く朦朧ながらにはあんなれども數多材料の見ゆるに似たり、然ながら其は又ゆる〳〵のヿとして此に一文章の材料たるべき一木眼前に見當りしかば先づこれよりぞ始むべし

つい此程の事なりけり某女學校の卒業式に臨みしに滿堂數百の紳士淑女孰も晴に裝はせ玉ひ金鎖玉笄意味も深げに相映じ花瓶の花の恥かしそうに咲きも香へる意地らしさ、旭と星の二旗の抱きもちがえてはでやかなるなど愛と平和と美妙の德の溢るゝばかりなる盛會に氣も浮き魂も飛ぶと覺ゆるほどこそあれ軈て奏樂となりぬれば妙齡の淑女方風情も容姿もうるはしく、妙音雅曲に名歌を浮べて謠ひすまし玉ひし有樣、天津乙女の宮にやあらんかと訝るばかりの心地したりし。然るに此に不思議にもいとも惜むべき一事と申すは彼時聽つる邦語文章の上の事なり、道士私に惟へらく歌と云ひ樂と云ひ姿と云ひ心と云ひ萬事優しくみえ玉ふ彼の姉妹方にてましませば其文章に至りても定めて流麗優美なるべしと斯て耳を側だてゝ待設けつゝ聽はべりしほどよ（其說の良否と文章の巧拙は暫く措て論ぜず）其文章の言語と句調の往々野俗に敗れ落、或は木幹竹葉を生じ或は殺伐の風を起して道士に冷汗を與へしことこそ返す〳〵も口惜しかりけれ。蓋し今日女學校にて一大欠點とも申すべきものは邦語文章學の一事あるべし、無理ならぬとは云ひながら殊更「ミッシヨン」の學校に於ては英語兎角に偏重して實際活用の功德ある邦語文章なんどの如きは殆ど別科の勢力とあり此が敎員たるものも隷屬的の敎員多く良敎員に乏しとぞ聞く誠に悲しむべきとならずや、尤も中には既に氣付いて大に改革をなしたるもあり又等閑にせざるもあるべし、彼の卒業の文章とても其漢語の多くして句調の突兀たるより察すれば女生徒諸子の身にとりても餘程の苦學を積れしならんか左れば右の女學校とても敢て和文を等閑にして文章を敎へざるにはあらざるべきかも、獨り怪しむ同じく文章を學ぶからにはなどて野鄙をば雅美にかへざる、などて奔放を流暢にかへざる、などて漸く廢らんとする漢文躰、淑女に適せざる佶倔文より普通活達の和文躰、流麗の文を學ばざるぞや、否々、是は此れ學ぶもの丶過にあらず、敎ゆるもの丶過あり、敎ゆるもの丶過にあらず其の學に良敎師を聘せざるもの丶過なり、良敎師を聘せざるもの丶過にあらず、事情を知らざるの過なり、事情を知らざるの過にあらず、事情を知らせざるもの丶過なり即ち我が身の上にこそ道士豈默して止むべけんや、既に默せずして之れを云へり後日猶ほ欠點の存するあるあらば果して誰れの過ぞや。

說く者は辯に流れ聽く者は辭に流る　（孔子家語）

批評

(75)。女子必携今世ひめ鑑（中本一册二百九十六頁 定價五十錢 發兌所東京日吉町八番地女學雜誌社）

此書は關輪正路氏の編著にして全巻を衣服、食物、住居、禮式、出納、育兒、の六篇に分ち衣服篇には衣服選方、裁縫、洗濯、染方等六章を分ち食物篇には食物飲料の選方及び料理雜則等四章を分ち住居篇には住居選び方、住宅、間取、什器等五章を分ち禮式篇には日本西洋の禮並に客人目下に對するの禮等五章を分ち出納篇には物品買入出納整理家内簿記法の三章を分ち育兒篇には胎育、躰育、心育の三章を分ち當今女子惣躰の心得方悉皆を述ぶる。但し此書本社の出版に係るが故に例により玆に細評を掲げず只木村熊二氏が其序文として草せられたるを左に錄して之に代へ是非の評は一に世上の讀者に任ず。

婦人の男子に於けるや徒に其の意に順ひ容貌を裝ひ言語をつくろひて愛憐を索むるにあらず智德を高尙に研きて男子の良儔となるにあるなり夫れ婦人は若き時は美麗き容姿と活潑なる意思とあるによりて男子に愛せられ老いては完全ある智德と富る經驗とによりて更にその親愛を全ふするものなり今や婦人の習慣はこれと異なり若き時には活潑有爲の氣象に乏しく智德を養成ふべき實地應用の學問を事とせず外部を粧點する音樂踏舞などの末技に心をよせて半生を送る者甚だ多かりける鳴呼少年の春はいくほどある花の咲りは見る〳〵夏の若葉に移りぬ」と古人も言はずや堰とめかぬる年波の面によりくるその紋に芙蓉の色香も衰へては男子の愛情をつなぐよしなく曲れる節も嫋竹のくねらぬさきに秋風はかくも強情吹くものかと喞つ涙の早き瀨にねいるまぞあきうき艸の思ひにしづむ金閨の中三筋の糸や舞の歌今は仇なれかの時に雪も螢も集めなば又せんすべもありなんをとかへらぬむかし志のばるゝ花も果もなき埋木の人目いぶせくある身のはてを思ひやるだにあはれなり婦人にして生涯を安寧送らんとするには他なし父兄之を資け朋友之を憐むの時に當り仔々として惰らず行末の事までも遠く慮かりて人の妻となり母となりなん後は必ず十分の滿足を人に與へんものをと實用應用の學問を研究するにしかず又獨立して一生を送り得べき程の智識を有し藝術を能する人となるべきあり何ぞ百年の苦も樂も他人によるとて生涯を男子の翫弄物として送らんやおのれ近き頃家内經濟の大意をかきわらはして婦人たるものに人世の趣味を解得せしめ安樂幸福の家をつくらんことを望みたりき良き書の早く

社會に出よかしと思ひ居たりしが幸に關和君のものせられしひめ鑑の世に公になりぬと聞ていとうれしく心ある婦人のつらく〳〵この書を讀て其道を學なば一家の幸福のみかは其身にとりてこよなき幸を得んとは疑ふべきにあらざるなりろの益する所豈すくなからんやいま卷の始めに一言せよとあればひがごとゝは知つゝ思まに〳〵かくはしるしぬ。

○近時の女學論

(一)。博士鳩山和夫氏が高等女學校に於て演述ありたる筆記の續き「御婦人方の心得」の殘りは去十日發兌の羅馬字雜誌に出たり。大意は細君が其夫の親友と爲るべきとを勸むるに在て、夫の親友と爲るには世事、社會、の有様を能く知らねば成らぬ民權家の妻が夫が牢屋に入れられたるとき大方泥棒でも仕たのであらう左様でなくて牢屋などに入れらるゝもので無いと云ひ、醫學士がコレラの病原を發見し嘻しくッて嘻しくッて成らぬと云ふとき左様ですか夫より明日演劇に行きませうと云ふ様にては成らぬ。夫妻相ひ心を打明けて萬事を話し合ふに至れば双方の樂は倍して苦しみは半分減ず斯る利益ある商賣は他に一つもなし。而して斯く夫の親友と爲るには第一に學問第二に世事の智識を要することなるが假令ひ人に嫁せず獨身にて暮らす孃君ありとも亦矢張り學問と世事の智識なくんば立身の途を得まじ。云々

此回掲載の分は前回にも立優つて甚はだ面白く覺ゆ御主意は固より誰も反對の筈なし只だサスガハ能辨巧者にお言まわしの跡横文字の上に直立して語ばの勢ほひを示せり。

(二)。基督教新聞去四日及十一日兩回發兌の分に植村正久氏紐育通信を掲げ米國メスヂストの大會に於ける婦人議員出席の可否討論の摸様を報ず。其末に云く、

決議の投票を爲したるに四百三十五票中三十九の多數にて今回は婦人を拒絶したり……メソヂスト教會一般の氣運に據て觀察を下せば遂には婦人を大會の議員たらしむるを知るべきなり或ひは婦人を牧師と爲すに至るやも知る可らず獨り此教會のみならず他教會に於ても(コングレゲーショナル教會には婦人の議員あり)同一の變動を見るの期正に熟せりと思はる其利害得失に關しては余自ら考ふる所あり然れども婦人の斯の如き地位に達せんとするとは米國現今の生活より生ずる論理的の結果あるを疑ふ可らず。

實に然らん凡そ斯の如き問題には婦人に權利、あり或は無しと議論するは尤も愚なり總べて便利上相談上より談合ふを可と

す權利ありと云へばこそ燒氣と爲つて强論する者もあるなれ元來天下には心中樂しんで斯ることを强論する婦人甚だ少なきものにて素と喜んで男たらんとする女は殆んど皆無なりと知れ故に男女同權論の起るを嫌ふ者は先づ男女同權論に無頓着あるを可とす女子をして女性多からしめんと欲する者は先づ社會の制度を自由にするを可とす、人間は利巧のもの也放つて置けば各分勞して男と爲り女と爲り文と爲り武と爲る。

(三)金港堂發兌去十四日の「文」第一號に西村貞氏の女子敎育の精神一篇を載す。大意は、

日本女子が細微なる手工に巧みなることは誰人も許す所にて最も優れる特性と云ひて可ならん、左れば此の優美なる特性を保護し培養する事一也。理學的思想を養成し少くとも桑原々々それ臍をおさへろなど云はせぬ樣にする事二也。躰育の事三也。以上三つを當今女子敎育の精神とす。

然し斯ては丈夫なる細工人の女が出來る計り也何分夫丈にて滿足すると能はず。

○盲目使者（小本一册森田文蔵氏譯 東京報知社發兌）　かぶき 評

原書は佛國ベルチ氏の「ミケール、ストロゴフ」、譯文は原書の意を失はじと力めてよく不通の弊を免れし好文字なり。されど自家の才思をも加へずその儘にして出されしは例無きことにはあらざれども何となく殘りをしき心地す。趣向は中々面白し、されど所謂ベルチ流の小説なり、人情を精細に畫くの點に於ては取るに足らずと云はんのみ。强ひて之が惡口を言はゞ魯西亞柴邊利亞の地理旅行なり。

叢話

○夢ものがたり　なを子 戯草

或る仲好き二人の女生あり其一人いさゝかの病にて家に歸り獨り床み伏してさま〴〵に思ひ運らすうち身は瓢々として偶と河風すゞしき邊りにさまよひ彼の仲好き友どちと語らひけり斯て細やかなる物語の央ばなる比ろ惡戯する人のありて嗚呼やと驚き呼べば是なん南柯の一夢あかつき既でに傾むきて鳥の聲快ちよく聞ゆ餘りに在々として夢とは思はず辛くも起出でゝ之を書きとめたるが又夢の心地して現とは思はず左れば之を夢ものがたりと題して彼の友どちに送りたるに此の友も亦た同じきとのありとて之を夢なりとせず大に惑ふて之を余れに示す余れ黄帝にあらざれば之を辨じがたし但だ其文の面白きにより掻取つて女學雜誌に載す彼等もし之を見ば亦いよ〳〵夢なりとすべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

但し之は確かに十七才の女生一朝の隨筆に成る此の事のみ實正にして疑ふ可らず讀者たゞ其心して暴りに備ハれるを求るなかれ。夢ものがたりの序に云く、

ひとすじに君を思ひ寢の曉に見しその夢のまこととなりとは夕暮の風の涼しきにさそはれて心ともなく高殿の下に參りぬ三つは四つはの殿つくりいと淸らかなるに驚きつゝ見わぐれバ二階に五人の紳士の物語ずするある○君、いつ向ふに家が建つたらう子△いくらこつちの建築が完全しても向ふがあんなに低くツてきたなくツては第一 View を損するから早くならび立つやうにしたいが君はこないだ行つたそふだどんな容子でしたか若き紳士□仰せの如く過日まかりこしたが未だどうも材にとぼしくツて隨つて位置がわるいくはしく尋ねたら良木のないでもなからふが一寸見渡した所ではどうも乏しひやうです●外からきた者に體裁がわるいから先づ門だけは建てやつたが内部は向ふに屬するものだからこつちで自由にするとは出來んどうか立派に建てもらいたいものだ×こないだまでは良木のあるにあいにかゝハらず建築を禁じてをつたのだから立たないのは無理ハないが今日では之を自由にするの權を與へたからハ遠からぬ内燦然たる高殿を建てなければ向ふの義務がすむまひそれに又アノ昔しから流れ來たつた泥水を早く淸めてくれなけれバ交際するのにも……○イヤあの川のにごりはどちらの罪とも云へんぜアハ……

煌々たるまつよいの月山の端を出でゝいときよらなる影に見れバ實にこのむかいに川あり川のあなたに木の間がくれに見ゆるは今紳士が物がたりたる門にやあらん行かまほしと思ふにいかにしてか先きの高殿は川の向ひにありて今たつ所ハ門の前ありけり向岸に對立する高殿の宏大壯嚴なるにくらべてはいと見おとりせられたりさるは山のたゞすまい小川の淸らなる改良せば之れまた優美の勝地となるべし折りしも聞ゆるものゝ音は

「竹になりたやしちく竹もとは尺八中は笛末は女郎衆の筆のじく思ひちり〳〵〳〵しオーソレソーシヤエー○姉さん花ちやんはまだ□アゝ大かた金魚でも見て居るんだらう」といふは廿五六の大島田この屋のぬしの藝妓なり一人は十四五のかあいらしき雛妓あり金魚なんぞ見てはいませんよと入來るは十八九の別品今湯上りの淡粧は白地のゆかたにうつりよく細腰の立すがたは師直に見せまほしくもし美人の共進會あらば一等賞はうけあいなると見ゆるがにつこり笑ひながら△姉さん

本屋が來ましたか□さつき來たけれど何んにも持つてこなか
つたよ△いやな本屋だネーなぜだろふ……そこにあるのは
あに□これは中本第一の梅暦サ○オシヤク私は米八のやうに
なりたいは□それでは早く丹さんをおさがしナ○イヤーナ姉
さんだよ私しはたゞ米八の樣ないゝ藝者衆になりたいといつ
たんですは△アの本で見ると藝者は意氣で氣樂なやうですが
昔しはあゝでしたかネヘ姉さん□やつぱりそふでもなかつた
ろふが今よりはよかつたでせふそのかはり今は苦しむかはり
には又りつぱな方のおく樣になるともできるからわりあわせ
たら同じかもしれないオホ……△それでもいくらおかねが
あつてもこないだ千歳座でみた次郎左衛門の樣な人はいやだ
ネそれからカムヒヤの書生さんの御座敷は本とうにまつぴら
だワ生意氣でひつこくつて昨夜もまことに困つたんですワい
ゝお月さまですネヘあの風りんにうつるのがきれいではあり
ませんか□ほんにネヘメちやんはまた福ちやんの寫眞をみて
サ早く三味線をおかたづけナ

同じ月影も所々にて樂のしくも哀れにも見ゆるなり茅屋根か
たむき障子は鼠色にふすぶり所々破れたるひまもる風は病む
人の身をも心をもいたましむるならん燈火のほのくらきに熱
心にもの縫ふはこの病人のむすめなり

昔しはよしある人なりしがつゞく不幸に零落したれど松のみ
さほはかへやらで只ひとり子の成長を樂みとして暮すうちこ
の春ふと風の心地と打臥せしが重躰と云ふにはあらねど一日
〳〵と衰ろへ行にぞこのむすめの心細さはいはん方なく日夜
に流す千行の涙はつゞれの袖にかわくひまもなかりけり

○おつかさんちとおさすりまうしませう×なにいゝよお前も
あんまりかせいで病氣にあるといけないから早くお寢よ○な
にまだ今八時ですから……早く御膳があがられるやうになる
とようござんすがツシテ私はぬふとがへたですから仕事にば
かりおわれてアノ湯液を上るのも怠りがちゆへもつと上手に
早くありたふございます、と云ひつゝこぼす一雫そむくる顔
を母はあがめ×地主樣の御孃樣もちやうどあなたと同じ位ひ
のお年ばへだが西洋服の立派なのをめして夜會や宴會へお出
でになるのを見るにつけいかに不運といひながら同じ人間に
生れながらあゝもちがうものか西洋の學問は兎もかくもせめ
て日本のとだけは人並にあらはせたいと思ふにも思ふにまか
せぬ世の中のなまじ開けし御代にあひて無學にわが子を成長
さするとは親がひもないアレ勿躰ないそれは時節だからし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

かたがありませんとふして着物を縫ふもやつぱり働らいて居るんですからよふございますなまけてゐるのが一ばんわるいとこないだどなたかに聞きましたオヽ夫々アノ此間お孃様が慈善會においでになるとかで御門の内に立つて居らした御服の美しひのにツイ見とれていましたら英語だかなんだかわからない言葉をまぜて側に居らしつたお方に私の事の惡くちをおつしやいましたが慈善會は貧乏人にほどこしをする爲めの會だと申しますのにお出でがけにその貧乏人の風がきたないとかおかしいとかお笑ひ遊ばすのはあんまりで御座いますチー……おつかさんおこゝろもちはよろしふございますか
×今日は大層よふござんす○それでは一寸このおめしを持つていつてきますお湯をこしらへついで置ますから……、と仕立てあげたる衣服を布呂敷に包みそこらに氣をつけながら立ちいづる。(未完)

○土耳古の婦人　みどり錄

此頃社員が美妙齋主人に面會して色々の談話の末、土耳古の婦人に付いての物語ありき。その事すこぶる貴婦人諸君に益あるべければ其儘を爰に掲ぐ、

「土耳古人が妻を得るは奴隷の市にて購ふにて、從つて結婚の後といへども夫妻相見ること極めて罕なれば親密の情の少なきも故なきに非ず、土耳古にて奴隷の市は最早今日は廢せられしといふは實際虛言にて尙この風習存せざるに非ず。たとひ夫は陋しき人なりとも食事の時は我邦の給仕女の如く夫の側に侍して配膳するは土耳古婦人の務にして、妻の食事などは夫に比して一層下れり。たゞ富者の女にして入婿などするものに於てはその陋しまるゝ度左迄にはあらざれども、もし妻の家貧しき時は全く奴隷とし見られざるはなし。人に對しても妻の事に語を及ぼすを殆ど耻づるの形迹ありて、船などにて旅行する時は夫は華美なる室を借受けて眠座すべく心に任すも、妻は全く戶外にありて寒風に戰慄するのみ。之を東洋風として見れば左迄怪しむ處無きにあらずといへども更に西洋各國の眼を以て之を見なばそも〳〵如何。現に吾儕日本人はこの躰に接してその憐れむべき嫌ふべき風習たるを忌まずんばあらず。然れどもその吾儕が忌むといふは實際忌むべきの資料ありて然るなるや。思ふて爰に至れば悵然たらざるを得ざるなり。」

○演藝矯風會に望むること　美妙齋

一　情事の今少しく曲折あるものを演ずべきこと。

發會には御目出度主義を取用ゐてかれ是無難にして而も無味なる品を採用せられしなるべしといへども長く此躰を墨守するに於ては些少なりとも日本文學の障害をなせしものとして全會をバ擯斥せざるべからず從來の院本などの中には採るべき處少からず●而れどもその野卑ある點及び猥褻なる點に至りては非難すべき所また少からず是等は早くそれ〳〵の文章家に謀りて精密に改竄し(學者に謀るを必せず)次會などには可あり見るべき物を出だされたし是事は會の規約にも見えたれど更に注意を促すため上の如し。

一かならずしも種類の多きを望むべからざる事。

音曲共進會といふ如き躰裁にてたゞ種類を色々多く見する事をのみ望むは害ありて益無し苟も注意して行ふに於てはたとひ所演の番組は一日一番乃至二番の少數なるも顧る處にあらず。

一講談落語などはあるべく新奇なるものを演ずべきこと。

謠曲、院本類とちがひ講談落語には一定のタイプあるにあらず然るをいくら演者の御得意なりとてあまり珍らしからぬものを演ずるは好ましからぬ事〻。

以上は極めて必用の事件として望むものなれども猶その他來賓接待の方の不整頓なること演藝實施の順序不揃なる事なきは頗る關係ある物ならむ。

その他盲人を出せしは技は妙なりといへども不快の感無きにしあらすと言ひし人ありき是は視感と聽感とを混合せし人所謂その主義もなき人なれば取るに足らず。

踏舞は黒人に限るといふか如きも技術と人物とを混合せし說なり。

○百人一首一口話 (第十二回)

鈴木弘恭講
八木鶴二錄

僧正遍照

天つ風くものかよひぢ吹とぢよをとめのすがたしばしとゞめん。

此の歌は古今集にのせてあります。五節の舞姫を見てよまれたる歌にて。五節の舞とは中古の頃毎年十一月朝廷にありし御式であります○天つ風は。天の風〻。このつは添ていふ言なれども所といふ義にて。天つ星。國つ社。わたつ海。遠つ國。などのつは皆同意であります○くものかよひぢは。雲の通路〻。舞姫を天女と見做したるゆゑに天に翔りて歸る路といふ意であります○をとめは。若き女のこと〻。萬葉集には少女末通女とかいてをとめとよませてあり

ます。今乙女とかくはよろしくない。乙はおとの假名にて假名も違ひます。しばしは少時之。一首の意は。天の風少女の通ふ霜路を吹き閉ぢてくれよ此のうるはしき天女の姿をいま暫時とゞめて見てありたいとであると之。舞姫の美麗なるを見て人間ではあるまい天女ならんと思ひて。よめるさま之○語格は。二段切れの歌にて三の句の使令言にて切れ。又五の句にて切れたり。とゞめむのむは徒の結びでおります。

小説

○さすがに双紙　美妙齋主人

第二篇　牝の影を舐る煩惱の犬。（下）

「え、ちよいと栗殼さん‥‥本當ですか」。

鋭之介は前後を見回はして、

「本當は、ね、笑ッちや否ですよ‥‥　阿父ざんから御報知も何も‥‥」

「そら無かッたンでしやう？」

「御察しのとほりです。　が、貴女、阿時さん、御報知も無かッたのに斯う厚かましく御跡に跟いて‥‥」、もはや聲は慓へて居ます。「來たのですよ」。　熱心の兆候は目にあらはれて居ます。　けれど時子は無言です。

「ですけれども‥‥」、すこし考へて居ましたが、急にまた心が別の處へ向いたと見えて、一寸後方を振向いて一層聲を低くし苦しさうに津唾を飲込み、「あの花房さんは貴女の古い御馴染？」

「別に‥‥」

「大層氣取ッた人ですね」。

褒めて居るのやら、居ぬのやら分解りませんが、氣取ッて居ると人にも見えるほど‥‥あの、それ優美な人かと思へば贔負心には誹られてもこゝろ嬉しく思はれます。

「まさか」。　虻とも蜂ともつきません。

「浮氣らしい人ですね」。　些し非難が進化を經ました。

「でしやうかね」。　あゝ曖昧な。

處へかへッて來たのは時子の父親で今話に行ッた處から貰ッて來た菓子を出し、

「さア貴君、栗殼さん、たッた一ッ召上がれ」。

「有難うムいます。　何ですか、何事まで御滯在の御見込です」。

「エ、もウ大概飽きましたから何なら直歸へッてもよろしいのですが」、思付いた躰で娘を見返り、「禮爾さんは?」。

「今、何處へか」。

父親はまた栗殼に向ひ、

「花房さんが後れて御出でなさつて....また賑やかになりましたから....はゝ....まア最すこし居りますつもりで」。

昨日このかた「花房」といふ言葉は鋭之介の心にはさながら蛇蝎のやうに....なぜでしやう....思はれますから、斯う言はれて心快くもありません。

「へエ、左樣ですか」と言つたばかり。不圖見れば花房も立戻つて來た躰にそのまゝ花房に關係した事をば話出さず、(それでも時子の姿を見捨てるのが殘念さに)、やがて日はくれても迂潤迂潤として其處に居ます。

要するに花房も栗殼も均しく時子を望んで居るのです。

それで今迄の處で見れば、時子の心は餘程花房に傾いて居る躰です。　是は何が原因となつて斯うなつたのでしやう?」その邊を作者が言ふのはむしろ繁冗を來すばかりですから省きます。　また、時子の性質や見識はどんな物ですか、それも言ふのは譯もありませんが、しばらく明日の御目覺に取つて置きます。　それで花房はその前から餘程堀の家と親しくして居ましたので函根入浴の誘引をば受けたのですが....御氣の毒さま....栗殼の方は....それでも猶堰かれて水も力を加へ支へられて空氣も熱を起します....賴む蝶が待花の心を知らぬのはまだ這方の誠實の至らぬ故と考て(思へば可愛さうです)、いたづらは執着の奴となつて居ます。

及ばぬと悟を開けば胸に競爭の心は起りません、及ぶだらうと思ふ儘競爭の心も起ります。　聞けば花房は堀一家を前から知つて居る樣子、見れば花房は堀一家によく取扱はれて居る光景、かへりみて自身を問へばそれ程に交際も久しくない上に碌によくもてなされも爲ませんが、それは交際を重ねた日數がまだつもらぬ故だとのみ考へて居ますから望をなげうつ事が出來ません。　口惜しさの炎はそろ〳〵起つ、今のところでその炎を打消すのはたゞ意中の人の情の露のみで、その露の一滴に對しては百丈の炎も獅子の前の羊です。　目射す相手と思ふ人との交情に睦ましさを見れば炎はおのづから哮り狂つてその嫉妬の舌をば先方の頰....時子の愛嬌を買出す頰、實に此方に嘲笑を賣捌く頰....へ試やうとも爲て居ますが、また意中の人に大人氣ないと卑められるかと恐れる

まゝ無理にこらへて、こらへて居ます。

「今に花房は部屋へ歸ッて行くだらう」。是が粟殼の心を往來して居考です。「今に粟殼は歸るだらう。　笑はれて居る癖に‥‥早く歸ッて行がいゝ」。是が花房の心に出沒して居る推測です。　主客四人、下女を合せて五人の人たちの間に色々な會話が色々にはじまる、その度に粟殼の氣に掛るのは時子が花房に挨拶を多くすることです。　時子と花房と戯れて話して居る、その姿にじッと目を注ては羨んで居ると思はれるかも知れぬと思ッて、ろのたび毎に故意と顏を餘處へそむける其つらさ、顏は外向けても無情な眼はむしろ横目の躰にあッて二人の擧動を盜んで見ます。　それで胸はます／＼涌、時子の父親の言ふ話が時子のやうに聞えて‥‥否時子の横聲のみがひとり殼膜へ感じます。　が、それも心から。仕方ありません。

○小說神髓

蘇格氏著　ケ子ルヲルス　（第二十三回）

陛下は洞穴の邊りに佇立みて切りに物を案じ玉ふ折柄「此憐れなる女をお助け下さい」と云ひ乍ら彼洞穴の中より出で來る者あり驚ろいて之を見れば容顏美麗にして尋常の婦人に似ず服裝も亦異樣にして只の風に見えざりしかば陛下

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も最初は之を生人形と御覽あり扨ても〳〵能く造りたるもの哉斯迄に心を凝めて朕を待すると殊勝なりと思召す折り、彼の生人形いよ〳〵近づいて跪まづき謹んで助けを乞ふ、陛下再たび愕然と遊ばして汝ちは抑も何物ぞと仰せらる、女は何の應へもせず只だ手を合はせて之を拜し辛うじて陛下の御保護が願ひたしと申す、陛下云く凡そ英國の乙女にして朕に保護を求め其の保護を受けざりしものなし何事なりや明白に申すべし、エメは侯の御難義に關することを言ひては惡ろし左ればとて今ま陛下の御助けを受けざれば此后亦た何如なる苦しみに遭ふやも斗られずと心を定め、何卒パーチーより私を保護して戴きたし私はパーチーのとらわれびとで私の命を危うくしたものより逃れて此處に隱れ居つたるもので御座りますと云ふ、陛下は何にパーチーと申すか其申條實事ならば確かに保護し遣はすと仰せ乍らつく〴〵と女の顏を打眺めて、朕は汝ちをラブサートの娘エメと觀定したるが誤まりあるかと言さる、エメは驚ろき轉倒して何卒お許し下さいと云ふ、陛下は打笑み乍ら何を許さうや抑も汝ちは父の名譽を失わせトレッセリアンを欺むきパーチーの妻と爲りしものなるべし汝ちの答へなくとも能く之を見拔きたり決して僞わりを申すな

エメはぎよつとして喫驚し陛下の御言葉の中ち眞となきには候わねども亦た些かも身に覺へなきとの候う特にパーチーの妻なりなどとは承たまわるも心苦しく候と燒氣と爲りて之を辨ず、陛下はエメが初めには似ず餘まり熱心に之を否なむを見て少しく心中に疑がひを起し、然らば汝ちは誰れの妻か誰れの妾けか判然と答へよ矢つて僞りを申すな今ま汝ちと話すものは英國王エリサベスたることを知れエリサベスを弄あそぶものは獅子を弄あそぶが如しと知れ、エメは陛下の威光に恐れ毒氣を拔かれたる如くに茫然としてレスター侯が何事をも御存知に候と答ふ、陛下は心中既でに十分の疑がひを生じ汝ち英國の尤も尊とき貴族を非らんとするか然し此の事に付ては例令ひ何如なる寵臣なりとも正義の爲めには之を許すこと能はずイザ共に來れレスター侯の目前にて是非を定めくれんと言さる、エメは驚ろいて一歩後へに退けば、陛下は之を罪あるもの、證しとして益す激し御腕を伸して之を引ずり玉ふ。時にレスター侯は多くの人々と共に獵りの御相談あり諸人は皆な侯の權勢に服して何かと追從する折柄陛下は疑と怒とにて龍顏常に變わり目はきらつき髮は亂れヘンレー八世の娘たる恐ろしさを其儘にして右手に眞青にして殆んど死したる如

き女を提げ來らる近侍のもの驚ろいて馳せ來るを陛下は手にて之を退ぞけ乍らレスター侯何處に居らるゝ平前にお進みなさいと仰せある、其時皆々は侯への寵愛極まりたるを知り今にも御出目度事の吉報あらんと待つて居り其の好運の上には一つの雲もあらすと考へ居たる處ろ靑天よ霹靂として急に雷鳴あり落雷ありし如き今の有樣に何れも恐怖して仰ぎ見ると能はず、レスター侯おそる／＼出で來る、陛下は半ば死したる如き彼の婦人をバ左手にシッカと捉らへ右手にて之を指さしラッパの如き聲にて汝ぢ此の女を知れりやと問はる、レスター侯は千丈の石がけが一時に頭上に落來れる如くに思ひ恐る／＼跪まづき首を下げて無言なり、陛下はます／＼怒らせ玉ひ汝ぢは朕が特の外に汝ぢに信用を置きたるの機會に乘じて朕を欺むきし乎何如なれば左樣に恩を知らぬ事を爲せしぞ汝ぢは汝ぢの父の運命を記憶するならん汝ぢの首も亦た首切台より落つるとなしと思ふ乎、侯曰く臣が首は貴族等の判斷に由つて落つるとにて平民尋常人と同じき取扱を受くるものに候はず臣が是迄に盡し奉まつる信實の行を左樣一朝に輕々しく見なし玉ふ陛下よは依り申さず、陛下大に怒り怒れる聲を振り立てゝ言ふ皆の者此の驕慢なる人を見よ朕が與へ置いたる城中にて朕を輕ろしめんとは爲す、ソレ、シウールスペリー早や之を捕らへよ。

佚傳

○光格天皇御生母盤代君履　中川恭寄

一盤代幼名阿鶴氏ハ岩室姓ハ大江延享元甲子年(月日不詳)伯耆國久米郡倉吉ニ生ル岩室常右衛門の女にして實母名ハ阿林當時常右衛門ハ池田家の老臣荒尾某に仕へて士たり祿若干を食む其後故あつて浪士となり阿鶴を携て山城國京都に移轉右京新町武者小路下る町ニ居住し醫業を開く名を宗賢と改む阿鶴此時九歳なり宗賢禁裡御使番生駒某と親善也之か紹介を以て岡本某に依り阿鶴(年齢不詳)を　禁裡に入れ成子内親王(籌宮)に奉仕せしむ内親王の閑院典仁親王に嫁せらるゝや阿鶴亦從ふ是れより親王の女房となり即ち名を盤代と賜ふ盤代和歌及び書を善くす而して王妃内親王ハ明和八辛卯年五月十一日を以て薨す盤代同年三月十五日(實ハ八月十五日なりと雖とも安永十辛丑年より嫡母　成子内親王を以て實母に立せらる故に本行の如く月日を改めらると云ふ)分娩　祐宮御降誕即ち光格天皇なり時に盤代行年二十八其七夜に當り閑院宮より祐儀として金百匹藥料として金三百匹を盤代へ賜ふ同九壬辰年十月五日　祐宮聖護院宮へ御付弟披露の時聖護院宮より祝儀として金三百匹を盤代へ賜ふ盤代同年十月八日分娩寛宮(亦新宮と稱す)御降誕即聖護院盈仁親王なり天明元辛丑年九月廿八日寛宮大宮御所に於て親王に立せらる閑院宮より祝儀として金三百匹を盤代へ賜ふ同二壬寅年(月日不詳)聖護院御得度初て閑院宮に入御の時閑院宮より祝儀として紗綾壹卷金五百匹を盤代に賜ふ盤代より父宗賢を新宮御乳母少貳に依り聖護院宮へ立入りを請願せしに同四甲辰年閏一月十五日允許あり且二人口を賜ひ而して法橋に任せらる同七丁未年十二月廿九日宗賢を同宮へ奉任すへき旨を命せらる寛政六甲寅年九月六日盤代薙髮す同宮より法名を蓮上院樂邦定生と賜ふ文化九壬申年六月廿八日同宮盤代か爲めに居宅を門前に新構し以て之に居せしめらる盤代罹病同年十二月九日丑刻逝去同十四日寺町廬山寺(即今上京北邉町)に葬る享年六十九香典として閑院宮より白銀三枚を賜る代盤任世中　光格天皇より内密に金員下賜せらるゝありと明治十年六月廿七日盤代墳墓洒掃方及び祭祀等を宮内省九等出仕閑院宮家令兼務西尾爲忠より該省に請願し即ち同年十月廿五日洒掃方ハ京都府墓掌丁にて兼務年祭の節ハ祭祀料下賜す可き旨御指令あり同新十月廿三日宮内卿より京都府へ御達左の如し

　閑院宮典仁親王の女房盤代儀ハ光格天皇の御生母に付自今年祭の節ハ爲祭祀料金二十五圓下賜候且右墳墓平常洒掃等京都府墓丁兩人にて兼務候に付壹人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に付一ヶ月金五十錢宛支給候條渡方可取計候此段相達候事。

同年十一月六日同郷より盤代贈位の義御建白左の如し上略

光格天皇の御實母たる義判然候ニ付てハ閑院宮に於て年祭等執行可致ハ當然に候得共共同宮今般東京移住被仰付候に付てハ諸事行届兼候場合も有之平常洒掃等ハ京都府纂丁の内にて兼務致し年祭の節ハ祭祀料下賜候旨及指令候ニ付てハ此際相當の位階贈賜相成度云々下略。

同十一年三月六日特旨を以て磐代へ正四位を贈らせらる其宣命左の如し閑院宮に於てハ家従池田義をして其墳墓へ旨を告けられたり、

故　大江盤代

特旨を以て被贈正四位候事

明治十一年三月六日　太政官

故大江盤代

贈正四位

太政大臣従一位勲一等三條實美奉

明治十一年三月六日

盤代養子を岩室大進大江信之と云ふ其子信貞從六位に叙し石見介に任せられ其子信行三代相恩に依り士族仰付られ現に京都府に住す盤代父宗賢の家ハ現に倉吉町に存し戸主ハ岩室勝雄と云ひ島根縣士族たり盤代實母阿林は倉吉ニ於て天明三年八月廿三日を以て死す墓所ハ同地大岳院境内にあり在世中ハ盤代より信書を通し且物品を付與せしと數回なりしと云ふ

明治十三年七月調査

○基久之女艶色　木村半兵衛寄

加茂神主基久に一人の娘あり深窓に養はれて有し時より若紫の匂ひ初本結の寝亂れ髪末いかならんと見るに心も迷ひぬべし齢すでに二八にもなりしかば巫山の神女が夢の面影玉妃の大眞院を出し春の媚を殘せり其頃帥宮（後醍醐天皇）と東宮（伏見院第一之皇子）と此女を御覽せられて互に御文の數千束にあまる程に成りにけり女も哀なる方に覺へけれとも吹も定めす浦風になびき果へき煙の末も終にはうき名に立ぬへきと心強き氣色をのみ關守になして三年をすごしけり父母も是を聞て止事なき御子達の御覺等閑ならぬを聞てなどや今まで御いらへをも申さす止にけるぞと打詫れば御消息傳へたる兩方の媒序よしと思へて早く一方に御返事をと責ければ女云ハかりなく打詫ていざや我といかで分方待るべき唯此度の御文に御歌のいと哀に覺待らん方へこそ参らめと云て打笑ぬる氣色を二人の媒嬉しときゝて急ぎ宮々の方へ参りかくと申せば頓て伏見宮の御方よりとる手もくゆる計にこかれたる紅葉重の薄様にいつよりも言葉ずで哀なる程なり、

思かね言んとすれバかきくれて泪の外ハ言の葉もなし。

とあそばされたり此上の哀たれかと思る處に帥宮より御文あり是はさしも色ふかゝらぬ花染の薫りかへりたるに言葉はなくて

數ならぬみのゝ御山の夕時雨つれなき松ハ降かへもなし。

此歌をみて女そゞろに心あとがれぬと覺て手まもちながら詠め臥したりされとも親なん避て東宮の方へぞ参らせける。

寄書

新築の大坂一致女學校にまいりて　紀伊國　ちさと老女

清堀の里なつかしく吹く風にこゝろの雲も晴れわたりける

同前　伊紀國　たま子

きよほりの里にゆかしく生ひたちてよゝに榮ねよ池の蓮葉

同祝言　在大坂　山田淳子

名にしおはゞ玉をもつくれ清堀の池の蓮の花にならひて

何とはなしに　稲葉通子

ひとしきり芽含の雨のかゝれかし青人草の色もかれゆく

新報

(此欄内自由に轉載するを許す)

○華族女學校々長

大鳥圭介君華族女學校々長の兼任を解かれ、宮中顧問官西村茂樹君同校長の任を兼ねらる。周密鋭利なる大鳥君の罷められたるは尤も悲しむべしと雖ども、篤行謹直なる西村君の之に代へられたるは、尤も喜ぶべき也、密かに察す、同校に於て増減する所ろ少なく教育の方向に於て變更する所亦少なからん。官海の學校々長に於て、時々更代の止む可らずとせば、先づ此位の更代に於て止まるは、甚だ賀すべき者也。

○高等女學校の改正規則

高等女學校に、矢部田眞吉君校長と爲り、能勢榮君教頭と爲られたる以來、兼ねて大に改革あるべしと承はつて、之を待構へたると一日ならず。去る十三日の官報に、改正規則の出でたるを見るに、左したる變化のあらざりし様なり、但し歴史に日本歴史とあつて外國の歴史なく、家事に經濟衛生等を欠くは何等かの新意見候ゆへと想像するの外なし。而して各科授業時間配當の表は、吾人の尤も見たく欲する所ろなるに、官報は之を略したり、詰らぬ卒業證書の雛形などを掲ぐるよりも、何卒斯様の大切なる者を載せらるゝよう、向后をはかりて官報局の方々に願む。

○女子教育奬勵會の東京女學舘

同舘に於ては、新來の女教師方をして、一切基督教風の教へを爲さずとの條約を爲させたりとの評判、近來切りと行わる。然し、吾人が同舘に尤も關係あつき博士より承はるに、之は平日の科業上に毫末も宗教を入れずとある丈けにて、固より私しに教を話すは女教師方の勝手に任せあるよし、尤も左もあるべき事也。夫故へ、教師方の私室に於ては朝晝晩三度づゝ基督教の小會あり、生徒中の有志者は之に臨むよし、現に同生徒より傳聞したり。

○女學校と宗教

女學校教師の宗教を信ずるは尤もよし、然し宗教を學校の科業中に入るゝは實に宜しからぬ也、若し女傳道師を造るとの目的ならば兎も角、若くも普通の女子教育を施さんとするに當ては、日課として聖書佛典を暗誦さするなどは、害あつて益なしと信ず、此理は他日詳かに論ずべし、序でなれば茲に基督教及び佛教主義の教育家諸君に一言し置くもの也。

○演藝矯風會の藝妓問題

演藝矯風會の藝妓問題は喧ましゝ。然し鹿鳴舘に藝妓を入れぬとは是れ最初よりの定めなれば、該會より所々の新聞紙に對し辨じたるは、必らずしも藝妓を會員に入れぬとの義にもあらじ。然し讀賣記者の如く、藝妓は藝を賣る女なれば、無論會員たるに適當の者なりとは、亦是れ字義に拘泥したる不通の論なり。吾人へ此の一問題に關して、別に道徳上より論下するを須ひず、只だ左の如く一言すべし、云く藝妓が藝人である限り之を會員と爲すべし、ゲイシヤである限り之を會員とせざるを可とす、蓋し今の藝妓が、落語家講談師お師匠連の如き藝人同様に藝を賣るものなりとは、何人と雖ども承知するとを得ざるもの也。

○日本赤十字社支部　同社にては今度常議會の決議により上奏を經て廣島博愛社を日本赤十字社廣島支部となし支部長に千田貞曉氏副長に鹽屋方國長瀨時衡二氏を撰擧したりと。

○第一醫院小兒科　本郷の醫科大學第一醫院にては今度院内に小兒科を設ふけ去る十一日より月水金の三曜日午前八時より十一時までの間十二年未滿の小兒患者を診察治療すると云ふ。

○高等女學校卒業式　同校は去る十二日午前九時より卒業證書授與式を執行せり森文部大臣辻次官を初じめ各官立學校長教頭文部省各局長等臨席生徒の唱歌作文朗讀ついで文部大臣の演說等あり十一時半式を終たり卒業生徒の姓名左の如し。

全科卒業　大村春代、藤澤りの、森きみ、大塚ゑつ、大橋もりゑ、薗かめ、瀨川さく、北川よし、白杉みさほ、大築また、安達ちう、星名なか。

撰科卒業　石原かずゑ、石田ゆう、乙骨まき、渡邊はな、片山てる、吉岡しづ、棚橋わか、山岡しん、木村しやう、菊君かめ、平野みつ。

○哲女舘　青山御所表御門前なる同舘は創設日猶淺きも舘運日に隆盛に赴き現在生徒の數は既に百餘名に及び講堂寄宿舍等追々狹隘を感じ來て目下同舘新築の地所を撰定中の由なり又今度新に教員數名を增聘し理學士吉岡哲太郎氏の理化學講義醫學士三浦省軒氏の衛生學講義老儒石川鴻齋翁の烈女傳講義等を加へ更らにミス、スヒフト島田豐島田弟丸(英學科)山崎たか子(漢學畫學科)等の諸氏も同舘教員に聘せられたる由。

○横濱フエリス女學校　去十一日本科生卒業式あり世眞田春(習慣の勢力)片山義江(日本女服)佐藤哲(詩)新井菊(女子の志想)林定(暗誦)星野光(當代の需要)平野濱(無感の感化)長谷川峯(實行勝言說)星野光(暗誦)(以上志皆英文)等の英文朗讀ありて后ち星野光平野濱二子へ卒業証を授けらる。

○同共立女學校夏期閉校式　去十四日午後四時より同式を執行せり歡迎(田中三香子)男女交際論(細野比古子)學問は裝飾にあらず(朝倉みや子)英詩暗誦(吉岡多満子、森とく子)大丈夫●税所つる子)其他數名の演說會話あり中々盛會な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りし由。

○和歌山婦人會　和歌山婦人會員の催しにて和歌山區内岡東館に於て婦人の大集會を催せり本會員現在員（他府縣へ出身の人廿名余あり）八十余名其他高等小學女子部生徒二百四十名尋常小學三年生以上の女生三百二十名を招きなほ他に市中の婦人を招き八百名に近き集りなり席上には名譽員數名の演說あり最初に當區内の住人藤井定吉の妻川尻猶代の姑に仕へて孝を盡くし夫に貞節に家庭の教育に行屆くを以て本縣知事より賞狀を附與せられしを演し終に女子部訓導藤田八重女史電氣の功用並に電信機の說明をなし次に同訓導瀧本光枝は飲酒の害をあげ和合の栞といふ小册を一同に配與せる由附て云ふ本年四月より會員一同の決議にて數名の貧女生徒の授業料を補助することになりて現在實行しつゝありとのこと。

○讃岐婦人會　讃岐婦人會は目下七拾余の多き會員にして毎月一回つゝ開會せらる而して多く小學教員にて組立てられ耳順ふと云ふ程の老婦人を始めとして最とも若き婦人に至るまで熱心に女風改良に盡力せらる特に禁酒のことなどは尤も熱心に周旋せらる同會は會員を二組に分ち一組は午前に於て專ら學術研究にして將來女學校に入らんとするもの或は教員にならんとするものなり午后に於て專ら談話的にて家事經濟或は保育の一切及び近易の博物等を研究するものなり（三谷氏報）

○和歌山師範學校女子部　同校にては從來女子部の設けなかりしが追々女教師を養成するの必要を感ずるの機に至れるを以て其筋に於ても來二十二年度より校内へ女子部を新設せんとの計畫ある由。

●叢報　日本海濱矯風會にて會員を募集せり○芝白金の頌榮女學校は目下生徒募集中なり○府下京橋區にて幼稚園を設けんとて有志の計畫あり○横濱法律學校内に設けたる英學專修學校は女子部を設け去十一日開校したり○京都同志社女學校にて生徒を募集せり。

小供談

○印度物語　第五　象と蛙

數多の蛙群をなして住み居れる池ありけり此池に象日每に通よひ來て水を浴みけるに蛙ども妨げらるゝのみならず踏み殺さるゝ者多かりければ皆痛く之を憂ひ古くより水際の洞にすみて世の智惠にはいと富みて仰ぎ尊とまるゝ蟇のありければその許に至りて事の由を訴へけり蟇は嚴ゝ形をつくりて蛙にむかひ愚かなる者かな何とて恐るゝ事のあるべき象と汝等とは身の大小はくらぶべきにあらねど强さと大さとは異なれる者なるをしらずやよし助くべしと言ひければ蛙共皆聲を揃へて助け給へ助けたまへとなきさけびけり蟇は蛙の中よりいと身輕の者を擇みいだし好く〳〵事をいひふくめ池の上につきいでたる岩の上に置きて象の來るを待ち居りけり斯くとも知らず象は池のほとりに歩みよりける程に岩の上より蛙聲をあげ汝再び此池に來るまじわれ神の仰せによりて詛ひ殺さんと呼はりければ象は何心なくさる神のあるべきや汝の詛ひ得べきやと諾ふ氣色もなかりしに思はぬ方にて吾使のいへるが如く斯あるべしと不思議なる聲のしければ驚きて振り向んとせしとき蛙は素早く池の中に飛び入り波を蹴たてゝ水の面にうつれる象の影をかきみだし再たび首べをあげて象を見詰め汝ちの影は消え失せたりやがて汝ちの身もかきけしくれんと嚇しけるに象は如何さま神のたすくると思ひ身に禍の及ぶを恐れて周章てふためき森の方をさして一散に逃げ去りぬ蛙共之れを見て身の大いさは强さにしかずとてうたひはやしける。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●西部婦人矯風會演說
來八月七日（第一火曜日）午後四時より
麹町區中六番町十番地番町教會堂に於て開會

演題　クリスチヤン、ホーム
辨士　內村鑑三君

西部婦人矯風會

奥山朝恭先生撰譜　梅田磯吉君編

學理ハ西洋 歌曲ハ日本　音樂早學び

一冊定價金拾八錢
郵税金六錢

此書ハ初メニ西洋式音樂ノ讀譜法ヲ極メテ平易ナル會話文ニテ丁寧ニ說明シ次ニ實地ノ例ヲ日本固有ノ唱歌及其三絃ノ手法等十數曲ヲ譜ニ取リ皆西洋ノ學理ニ基キ實地樂譜ノ活用ヲ示シタレバ夫ノ感情ノ標準違ヒタル西洋唱歌ノ妙味ヲ知ラザル人達ニモ此書ノ例ニ擧ゲタル歌曲ヲ唄ヒ或ハ彈ク事ヲ解シタル者ハ師傳ナク共西洋ノ音樂モ日本ノ音樂モ別ニ逕庭ナキ事ヲ解シ且音樂ヲ獨學シ得べキ良書ナリ

發兌　神田宮本町五番地　叢書閣

書肆　日本橋區通三丁目　丸善書店

日本橋區通一丁目大倉神田區表神保町中西屋同小川町集成社
横濱辨天通リ四丁目丸善書店大坂丸善同梅原名古屋村松五郎

關輪正路君纂著○木村熊二田口卯吉兩君序

女子必携　今世ひめ鑑　全一冊　定價金五拾錢　郵税金八錢

右出版いたし候是非は自から公評あらん凡そ當世婦女子の心得べき承知すべき質問すべき箇條は大抵悉く記載し有之候蓋し古しの「ひめ鑑」の重實なりしとを御存知の方々は此の開化したる當世のヒメ鑑に亦た同様の助けあるとを想像し玉ふべし

毎月刊行　通信女學　第十一卷（發兌）

例規の如く定日に出版せり之は所々の婦人會にて會讀の爲めにお用ひに成り且つ學校に通ひ難き婦人方が家內にて御自身と稽古あさるゝよは至極適當の教科書と存ず一冊七十頁以上美裝の細圖數葉入り文學一班理學一班及び女子生理、小兒育て方、萬國歷史、百人一首講義、小供のはなし等有之、一冊郵税とも貳拾錢半年前金壹圓一年前金貳圓、但し此迄の分を取纏めて御買入の方も亦た同様に割引いたし候。

東京日吉町八番地　女學雜誌社

クレームシモン廣告

クレームシモンハ巴理ノ最モ名醫ノ勸メル所ニシテ美麗ナル婦人ハ皆是ヲ用ユ、此藥ハ他ニ其類ナク一夜中ニ面胞（ニキビ）、胼（ヒビ）、寒瘡（シモヤケ）其他皮膚一切ノ出來物ヲ治ス又皮膚ヲ白クシ強クシテ且香氣ヲ添ユ

プードルシモン（粉）サポンアラクレームハ共ニ同シ香氣アリテクレームシモンノ著シキ功能ヲ全クス

一手賣捌　横濱五拾一番　ア、キユルチー

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

交詢案內

（催促する勿れ　郵券十錢送れ　委細に申來れ）

●雇ひたき方（甲）

九　下婢　年齡三十歲より五十歲の內の下婢一人を望む業務專ら飯焚勝手仕事折々洗濯等あり家族三人家事稍閑なり給料は面談の上可成基督信者を望む

●雇はれたき方（乙）

一五　召使　年齡十八才にして小學高等科卒業生にて小間使となり半日通學勉强いたしたし但し己の口を糊するたけ

一六　食客　同社女學校三年生年齡二十二三基督信徒にして今度出京何處かの食客となりたき人あり子弟の敎育を勉め且傍ら家事の補助をもなし每日幾時間の勉學を得且つ僅かの小使を給せられたしとのこと

一七　學僕　右妹にて年齡十六七才基督信者學力は姉に劣れども性善良なり二人無據出京し姉妹共に困苦を同ふし修學せんとの目的なれば學僕等最も望みなり

●喜びのめぐみ

五　乙第十壹號は神田猿樂町某と相談纏りたり

六　乙第八號は先方にて相談調ひしよしなり

男女混湯を嫌ふ婦人方に告く

上州伊香保温泉場ハ海面ヲ拔ク三千尺空氣氣候土質眺望共他ニ比類ナク泉質ハ胃弱貧血症リウマチス皮膚病白帶下月經不調子宮病等ニ効アリ殊ニ婦人病ニ特効アルハ大醫諸君ノ認メテ以テ日本第一トスル所ナリ故ニ當帳場ニテハ婦人科醫師ノ指圖ニ依リ子宮浴場ヲ設ケイルリガートルヲ備置且十數個ノ浴室ハ盡ク男女混湯ヲ禁シ女學雜誌記者足下ノ所謂蠻風ヲ去リ得タルモノニ候間貴婦人方ハ御安心御來浴アラレ度候

伊香保溫泉元　木暮武太夫帳場

發	発
七月。七日	十四日　廿一日　廿八日
八月。四日	十一日　十八日　廿五日
九月。一日	八日　十五日　廿二日　廿九日
十月。六日	十三日　二十日　廿七日

定	價
一册。五錢	郵稅。一錢　（但府內無郵稅）
十册。四十八錢郵稅。十錢	（同前）
半年分	一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行　（廿七字詰）　一回　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殿々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町眞明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文壽堂○○横濱住吉町角田晏貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入淨集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町○石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西內大工町新々堂○相州小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年七月十九日印刷
明治二十一年七月廿一日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY